



投票箱に投票用紙を入れる小海高の生徒たち

小海高3年生が模擬投票

架空候補者の政策比較して

県民が選ぶ

8・5知事選

8月5日投票の知事選を前に、小海高校（小海町）の3年生104人が9日、同校で模擬投票に臨んだ。県選挙管理委員会や小海町選管などが協力し、主権者としての自覚を持ってもらう狙い。生徒

たちは架空の候補者の政策を比較して投票し、1票の大切さを学んだ。

県選管の細川康・選挙主幹はスライドを使って、県内人口のうち10代後半と20代が合わせて約15%を占め、投票率は低いとして「皆さんの声が政治に届かず、若者向けの政策が実現されにくくなる」と説明。「自分が考える課題を

解決してくれる人に投票してほしい」と呼び掛けた。

生徒はその後、架空の候補者3人がそれぞれの政策を訴える映像を視聴。政策を比較するレジユメを見ながら「お年寄りの医療をどうにかしてあげてほしい」「あの候補は訴えていることが分かりやすかった」と話し合った。会場では実際に選挙で使用する投票箱と用紙を使って、それぞれ投票した。

今回の知事選で有権者となるのは3年生のうち36人。新井悠斗さん（18）は西日本の記録的な大雨を念頭に「防災を大事にしている候補に投票した。選挙は当選者が自分の1票で決まってしまうかもしれないので、しっかり選びたい」。渡辺絢さん（17）は「今まで政治に興味はなかったけれど、投票までにはしっかり勉強したい」と話していた。